

## 和菓子を愛して —全国銘産菓子工業協同組合の取り組み—

全国銘産菓子工業協同組合  
理事長 久保田 陽彦

### 1. 全国銘産菓子工業協同組合とは

てまえども全国銘産菓子工業協同組合（以下「全国銘菓」という）は、全国の老舗和菓子屋から構成される組合でございます。北は北海道から九州は鹿

児島まで、老舗の和菓子屋が会員となっております。  
みな和菓子を愛し、お客さまの笑顔を求めて和菓子を提供させていただいている老舗の菓子屋でございます。

全国銘菓の会員は表1の通りでございます。

表1 会員名簿

地区	会社名				
北海道	株式会社 わかさいも本舗 株式会社 六花亭 千秋庵製菓 株式会社	株式会社 三八 株式会社 五勝手屋本舗			
東北	株式会社 開雲堂 株式会社 かおる堂 株式会社 佐藤松兵衛商店	株式会社 白松がモナカ本舗 株式会社 九重本舗玉澤 株式会社 柏屋	株式会社 回進堂		
関東	米屋 株式会社 株式会社 豊島屋 株式会社 間瀬	株式会社 龜屋 社会福祉法人 愛光園 株式会社 房洋堂			
東京	株式会社 榮太樓總本舗 株式会社 清月堂本店 株式会社 虎屋	株式会社 三原堂本店 赤坂青野製菓 株式会社 合資会社 うさぎや			
北陸	株式会社 柴舟小出 株式会社 越乃雪本舗大和屋 株式会社 小布施堂	株式会社 森八 株式会社 浦田甘陽堂 有限会社 月世界本舗	株式会社 羽二重餅總本舗松岡軒 株式会社 山中石川屋 株式会社 大野屋	株式会社 大阪屋 株式会社 竹風堂 株式会社 桜井甘精堂	株式会社 飯島商店 株式会社 圓八
中部	株式会社 両口屋是清 株式会社 青柳總本家 株式会社 榎谷	株式会社 赤福 株式会社 きよめ餅總本家 株式会社 美濃忠	株式会社 田中屋せんべい總本家 合名会社 玉井屋本舗 合名会社 備前屋	有限会社 深川屋 株式会社 柳屋奉善 有限会社 平治煎餅本店	
近畿	株式会社 聖護院八ッ橋總本店 株式会社 鶴屋吉信 株式会社 鶴屋八幡	株式会社 福板屋 株式会社 豆政 株式会社 河道屋	株式会社 井筒八ッ橋本舗 本家尾張屋 株式会社 神戸風月堂	株式会社 本高砂屋 株式会社 伊勢屋本店 株式会社 本家菊屋	株式会社 白玉屋榮壽
中国	株式会社 廣榮堂 株式会社 山陰堂 有限会社 風流堂	株式会社 彩雲堂 有限会社 つるだや			
四国	株式会社 一六 株式会社 富士屋 株式会社 薄墨羊羹	有限会社 三友堂 有限会社 西川屋老舗			
九州	株式会社 村岡總本舗 合名会社 明石屋菓子店 株式会社 カステラ本家福砂屋	株式会社 北島 株式会社 石村萬盛堂 株式会社 菓秀苑森長	株式会社 お菓子の香梅 株式会社 大原老舗 株式会社 湖月堂	株式会社 金城堂	

## 2. 全国銘菓の生い立ち

全国銘菓は昭和25年（1950年）に設立されましたが、当時の日本は経済統制下であり、砂糖や小豆といった菓子原料の入手が困難で、ほとんどの菓子屋が自分たちの思うように菓子を作れずにいました。全国銘菓は、こうした状況下で苦しんでいた全国の老舗菓子屋が集まり、特別配給が受けられるよう、政府と交渉する窓口として設立された団体です。

前身は昭和15年に結成された「全国大口自家製館組合」でございますが、この組合は戦争の激化により昭和18年に解散しています。昭和25年に元全国大口自家製館組合のメンバーが集まり、先に述べた砂糖・小豆などの原材料確保のため「全国各地で銘産菓子を作ってきた歴史ある業者」の団体として「そののれんと技術の保存育成」を目指し「全国銘産菓子工業協同組合」が設立されました（表2）。

表2 全国銘菓の歩み

年	出来事
昭和15年	経済統制が始まり、のちの全国銘菓の母体となる「全国大口自家製館組合」が設立される。（戦争の激化により昭和18年10月に解散）
昭和25年	「全国大口自家製館組合」のメンバーを中心に「全国銘産菓子工業協同組合」が設立（8月10日）。11月10～19日に日本橋三越で「全国銘菓復興展示即売会」（のちの「全国銘菓展」）が開催される。
昭和26年	5月に大阪高島屋にて「第2回全国銘菓展」を開催。組合員数106人、102店が出店。11月に「第3回全国銘菓展」を日本橋三越にて開催（以降ほぼ毎年開催する）。
昭和33年	ブリュッセルで開催された「万国菓子博覧会」に出展し金賞を受賞する。
昭和34年	ロンドンで開催された「国際製菓製パン博覧会」に出展、金賞を受賞。
昭和35年	浩宮さま（今上天皇）ご誕生慶祝・全国銘菓創立10周年記念「全国銘菓大会」を開催し、五流宗家の家元による大茶会を催した。
昭和36年	ホノルルで開催された「日米親善銘菓展」に共催。その後アメリカ本土の菓子事情を視察。
昭和39年	組合機関誌「全国銘菓」創刊号発刊。
昭和40年	「第19回全国銘菓展」を創立15周年記念大会として開催。記念式典を明治神宮参集殿にて開催。
昭和41年	「第1回家族研修旅行会」（京都）開催。
昭和43年	機関誌「全国銘菓」を廃刊とし、広報誌「あじわい」を創刊。
昭和46年	創立20周年式典を開催。
昭和55年	創立30周年式典を開催。
平成8年	「第50回記念 全国銘菓展」開催。常陸宮華子妃殿下ご来臨。
平成11年	広報誌「あじわい」リニューアル。
平成21年	創立60周年記念事業としてフランス菓子を学びにパリ・アルザス地方に視察旅行を開催。
平成22年	創立60周年記念、京都・上賀茂神社にて献菓祭、記念式典を開催。創立60周年記念誌「日本の菓子 全国銘菓」を発刊。

### 3. 全国銘菓の活動（1） ～全国銘菓展の開催～

全国銘菓は発足当時より日本橋三越さまにて、いわゆる催事を行っていました。

第1回目は全国銘菓が発足した昭和25年に「全国銘菓復興展示即売会」という催事名で開催されました（写真1）。当時は菓子がまだまだそれほど市

販されていない時期で、全国各地の銘菓が一堂に集まるということから『甘いもの』に飢えた人々がこの催事に押し寄せたと聞いております。

その後、この催事は「全国銘菓展」と名を変えて本年度は第77回目の開催となりました。毎年のテーマに合わせ、各菓子屋が新しい菓子を作り、またさまざまな試みを行っています。



写真1 全国銘菓復興展示即売会の様子

### 4. 全国銘菓の活動（2） ～「あじわい」の刊行～

全国銘菓では会員のための機関誌として昭和39年に「全国銘菓」を創刊しました（写真2）。



写真2 機関誌「全国銘菓」

この機関誌をお客さまにも読んでいただける広報誌にしたいと考え、冊子の名前も「あじわい」と変更し、昭和43年にリニューアルしました。



「あじわい」の刊行は現在も続き、通巻200号を超えました（写真3）。



写真3 リニューアル後の広報誌「あじわい」

## 5. 全国銘菓の活動（3） ～相互研さん～

全国銘菓の会員にとっての魅力は会員相互の親睦、情報交換、そしてなんとといっても己の修練の場であることだと思います。

全国銘菓の村岡前理事長は、全国銘菓をよく「銘菓大学」と呼び、勉強の場であるとおっしゃっていました。私も同様に考え、諸先輩から本当に素晴らしいお話を聞かせていただいています。

会員相互のお付き合いは、菓子の技術だけではなく、会社の経営者として、そして己の人間としての成長ができる機会だと思います。私自身の話で恐縮ですが、既存の菓子のこれからを悩んでいた時、先

輩からのお言葉で目の前が開けた、そんな経験がございました。

経営、菓子の出来栄えについて、そして自分自身のことなど会員の皆さんから本当に勉強させていただいております。

## 6. 全国銘菓記念事業の実施

全国銘菓は令和2年に創立70年を迎えましたが、コロナ禍ということもあり、70周年記念事業は行うことができませんでした。なお、創立60周年（平成22年5月13日）の際には京都・賀茂別雷神社（上賀茂神社）にて献菓祭と式典を行い、会員加盟店65社、約100人が参列致しました（写真4）。



全国銘菓菓子工業協同組合 60周年記念式典 平成22年5月13日 於上賀茂神社



写真4 創立60周年の式典の様子

また、60周年記念事業として記念誌を発刊しました。会員各社の代表銘菓や和菓子についての紹介な

ど、200ページを超える本となりました（写真5）。



写真5 創立60周年記念誌「日本の菓子 全国銘菓」

さらに、同じく記念事業としてフランスへの視察旅行を行いました。パリ市内の菓子屋や古くから続く有名企業を訪問し、社主との懇談を行い、さらに

はコールマール、ストラスブールの菓子屋、菓子職人学校などを訪れ、実り多き旅行となりました（写真6）。



写真6 フランスへの視察旅行

## 7. 今後の全国銘菓の活動

近年マスコミなどで「和菓子離れ」という言葉を聞くことがございます。確かに和菓子と洋菓子では、洋菓子の売り上げの方が多いのは事実です。こうした状況の中で、和菓子屋の我々がこれからもっと元気になるにはどうすればよいのでしょうか。

そんな問題意識の中から我々は、今年の春から新たな事業をはじめました。それが「御菓印」でございます（写真7）。

「御菓印」とは、簡単に言えば神社仏閣にある「御朱印」の和菓子屋バージョンと考えていただければよろしいかと存じます。それぞれの和菓子屋が、自分たちのお店の本店に訪れてお買物をしていただいたそのしるし（記念）としてお渡しするのがこの「御菓印」でございます。

「御菓印」に協力いただいている会員は現在約40数社ですが、それぞれの本店で趣向を凝らしたデザインの「御菓印」をお渡ししております。また、全国銘菓ではこの「御菓印」を収集できる「御菓印帳」



写真7 各店オリジナルの御菓印

を製作し販売しております（写真8）。

各土地の銘産の和菓子にはそれぞれの歴史があります。また、その和菓子が生まれた店、本店にはそれぞれの土地の歴史があり、本店ならではの雰囲気、たたくまいがございます。それらを感じて、和菓子

に触れていただきたい、そんな我々の小さな願いがこの「御菓印」を誕生させたのだと思います。

これからの和菓子の可能性をこの「御菓印」と共に歩めればと願いつつ・・・



写真8 御菓印帳